

5年後の創立100周年を目指して
「UECビジョン2018」を推進中
ユニーク&エキサイティングを教育理念とする
小さくとも光る大学

電気通信大学

電気通信大学は名称に地域名のない
唯一の国立大学（大学院大学を除く）であり、
設立当初から全国に開かれた大学を目指していた。
現在の教育研究目標も先進的であり、
エンジニアのためのキャリア教育も早期から実施。
情報理工学部のみの単科大学だが、4学科14コースと
多彩な専門分野があり、卒業後の進路も幅広い。
今年、文部科学省「研究大学強化促進事業」の
支援対象機関に選定され、「小さくとも光る大学」を目指すという。



梶谷 誠 学長

1964年電気通信大学通信機械工学科卒業。1971年東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。1989年電気通信大学電気通信学部教授、1999年同大学共同研究センター長を経て2000年5月～2004年3月同大学学長。2004年4月同大学名誉教授。2008年4月より現職。専門分野は機械工学。

情報技術を 統合・融合した 「総合コミュニケーション科学」

1912年に豪華客船タイタニック号が北大西洋で沈没した。映画で何度も描かれてきたが、この

認識。特定の船舶に無線電信設備を義務付けた。日本もこれに対応して1918年に電信協会管理無線電信講習所を創設。この講習所が前身となつて、1949年に大学となつたのである。

2010年には時代の変化に応じて電気通信学部を情報理工学部に改組したが、電気通信を情報創造する道でもあります」（梶谷誠学長、以下同）

「総合コミュニケーション科学」の確立が、多くの人の被害をもたらしたこと、「生物も含めたすべての活動は情報によるコミュニケーションで成

立しています。このことから、すべての科学技術をコミュニケーションの視点から見直すという発想。クルマも人間がコミュニケーションするから好きな場所に行ける。それなら情報伝達はハンドルだけとは限らないですね。これは科学であり、日本の技術者が苦手な総論を創造する道でもあります」（梶谷誠学長、以下同）

同大学は5年後に前述の講習所創設から100周年となるため、08年に「UECビジョン2018」を策定。新たな挑戦を開始したが、その大目標も「総合コミュニケーション科学」の確立が、欧米では無線通信の重要性をもたらしたこと、「生物も含めたすべての活動は情報によるコミュニケーションで成



都心から近く、緑豊かな環境の調布キャンパス

「総合コミュニケーション科学」の
中核の学問領域

面倒見のいい大学

面倒見ポイント

初年次教育

- 学科横断の混成クラスで全学生共通の科目を履修。そのプロセスで、学科が異なる友人ができる。数学などの苦手科目もリメディアル教育で丁寧に指導。

電気通信大学概論

- 梶谷誠学長自らも講義を行う科目。電気通信大学のビジョンや歴史を学び、社会で活躍する諸先輩の講義を通じて未来の自分をイメージする。

キャリア教育

- 理工系国立大学ではいち早く実施。13年度からは1年生と3年生が同じ教室で学ぶピアサポートも導入した。学年を超えたコミュニケーションが必要になるので、年上・年下との人間関係にも強くなれる。

キャリア教育ボランティア

- 実務経験豊富な産業界OB約65名のボランティアが、専任講師としてキャリア教育をサポート。学生のレポートにコメントしたり、グループワークを進めていく助言なども行う。

学習ポートフォリオシステム

- 学内外の指導者が連携して学生に対応するとともに、ウェブサイトやeラーニングを活用して学生が学習できるように配慮したシステムを稼働。

10年度には「スーパー連携大学院コンソーシアム」もスタートしており、「今後は海外の大学や研究組織と積極的に連携していく」という。

文部科学省「研究大学強化促進事業」の概要

- 大学などにおける研究力強化を促進し、世界水準の優れた研究活動を行う大学群の増強を目指す文部科学省の支援施策。
- 研究マネジメント人材群の確保・活用と、集中的な研究環境改革を組み合わせた研究力強化の取り組みを支援。
- 國際的に見て我が国の研究力が相対的に低下傾向にあることが背景。2013年に閣議決定された「日本再興戦略」に基づいて実施。
- 2013年度は電気通信大学など22の機関を選定。10年間にわたり2~4億円/年を支援。

最後の「開放性と透明性」は、こうした大学運営などに関する情報をお伝えするには大学有して有効活用していく姿勢と表現できるだろう。

また、同大学は文部科学省による2013年度「研究大学強化促進事業」に選定(大学など22機関)。教育研究の世界的拠点を目指して改革に取り組んでいく予定だ。

理工系国立大学ではいち早く キャリア教育を実施

同大学は学生に対するキャリア教育でも定評が高い。理工系国立大学では先陣を切つて05年から取り組んでおり、今年度からは1年

生と3年生が同じ教室で学ぶピアサポートも導入。6人程度がグループになり、3年生がリーダー的な立場になつて1つの課題やテーマの解決に取り組む。「この取り組みは学年を問わないため、コミュニケーション能力も高まる」という。

また、産業界のOB約65名で構成されているキャリア教育ボランティアも同大学独自の制度。経験豊富な元ベテラン技術者が仕事の話から将来的なアドバイスまでしてくれるので、学生には心強い存在になるのではないだろうか。

さらに1年次は学科を超えた混合のクラスになるので、他学科の友人もできることから、前述した「知のボーダーレス化」につながっていくわけだ。

2年次には4学科に分かれ、さらに3年次からは各学科3~4コース全14コースを選択するという段階的なプロセスも、今の若者には向いている。学部卒業後は半数以上が大学院に進学するが、就職先も多彩である。

「私自身がメカトロニクスの黎明期を経験したので、技術者は広い視野を持つ必要があることを痛感しました。けれども、大きな大学でそれを学べるとは限らない。ユニークでエキサイティングに勉強できる大学だけがそれを可能にする。そこでUEC (Unique & Exciting Campus) と命名しまし

た」

キャンバスをユニークでエキサイティングなものにするのは大学

だけではなく学生自身の責任でもある。そんな覚悟を持って入学すれば、将来に有用な何かをいくつも得られる大学ではないだろうか。

入学後に専門分野を決めていく柔軟性

『大学ランキング』編集長
中村正史のワンポイント



「UECビジョン2018」に向けて電気通信大学(UEC)基金を創設しました。詳細はUEC基金オリジナルサイトwww.uec.ac.jp/kikin/をご覧ください。

問い合わせ先：国立大学法人 電気通信大学

☎042-443-5019 www.uec.ac.jp/

